

平成 27 年 度 学 校 評 価

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈教育課程〉 (1)国際理解教育を展開し、「よき市民」の育成を目指す。</p>	<p>(1) ≪①異文化理解、他者理解の深化 ②共生、協働の育成≫ ・グローバルコミュニケーションコースの特別講座を多分野にわたり実施する。 ・異文化理解のために、姉妹校との交流企画を文化祭にて実施する。</p>	<p>(1) 特別授業や姉妹校交流実施により、生徒の意識の変化が見られたか。(生徒アンケート)</p>	<p>・9月より短期留学生2名を受け入れ、グローバルコミュニケーションコースの各クラスで共に学ぶ体制を作った。 ・姉妹校オーストラリア・レベルンズホー高校生と職員の来校に際し、本校生徒宅でホームステイを受け入れた。 ・レベルンズホー高校生と一緒に、文化祭で企画発表を行い、互いの文化紹介を行うことができた。 ・グローバルコミュニケーション特別授業および異文化理解授業として、福祉講座（認知症サトウ・手話）と国際理解講座（フェアトレード・国際協力）を実施した。 ・小学校との連携として、なかよし会・小学校見学会および保護者との座談会を実施した。 ・2年生沖縄修学旅行において、民泊を実施し、歴史と文化について学んだ。</p>	<p>・今年度から、短期留学生の受け入れを行ったが、学校全体で留学生との交流ができる場面を考えたい。 ・ホームステイは各家庭の協力のもと満足していただく事ができた。次回29年度に継続できるように記録を残す。 ・レベルンズホー高校生徒と共にグローバルコミュニケーションコースが文化祭企画を行ったが、より多くの生徒が関わられる企画を考えたい。 ・国際理解、福祉講座について講師との事前学習の時間をさらに確保し、生徒の理解を深める。講師を招いての有意義な企画であったので、近隣中学校や地域、保護者にもより多くの方に参加してもらえるよう広報したい。 ・なかよし会、小学校見学会は15年以上続く企画であり、毎年多くの児童教育進歩希望の生徒が参加しており、今後も継続して行きたい。 ・民泊での体験交流がより充実したものになるよう事前準備について検討していく。</p>	<p>(保護者) ・ホームステイの受け入れを実施して、大変貴重な体験ができた。もっと多くの生徒たちと交流ができるようにしてほしい。 ・国際理解教育で地域の方や中学生などと一緒に学ぶ事ができて、良かった。継続して実施してほしい。 ・修学旅行では、民泊先への対応の差や帰宅時間について少し問題があったと聞いている。子供の安心、安全に留意した対応について検討してほしい。 ・資格試験を全ての生徒が受検するようにできないか。検定の取得は、日々の学習意欲を引き出せるのではないか。</p> <p>(学校評議員) ・せせらぎ学校では、多くの講師が来校し、盛り上がり良かったが、話の趣旨が上手く伝わったのか不安が残った。 ・多くの取り組みが行われている。 ・検定は、学習の目標として多くの生徒に受検させてほしい。</p>	<p>(学校評価) ・姉妹校生徒との学校行事での交流の他、留学生の受け入れを開始したことにより、異文化理解を深化させることができた。 ・自国文化の理解を深める修学旅行に加え、他者理解のための福祉講座など多岐にわたる特別授業を実施することができた。また、「せせらぎ学校」を通じて、地域の教育力を活用する事ができた。</p> <p>(改善方策等) ・国際交流については、留学生の受け入れなどを積極的に推進し、交流の機会拡大をすすめる。 ・オーストラリア・レベルンズホー高校生徒受け入れ中の姉妹校交流については、家庭や地域の協力を得て、さらに充実した取組みとする。 ・GCコースの特別授業がより系統的、組織的になされるよう工夫を図る。 ・英検の受検を一般コースにも広げることで、より多くの生徒が目標をもって学習に取り組めるようにする。</p>

<p>(2)多様な学びの機会を提供し、学習意欲の向上を目指す。</p>	<p>(2) <①多様な学びの機会の提供 ②学習意欲の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定や資格取得またコンテストへの応募等の支援を行う。 ・地域の方々から人生について学ぶせせらぎ学校を実施し、生徒自ら進路について考える機会を与える。 	<p>(2) 様々な学習機会を活用しているか。(検定等の受検者数および合格率、生徒アンケート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルコミュニケーションコース 12年生全員と一般コース希望者 13名が英検を受検し、2級 1名、準2級に 17名が合格した。 ・地域公開講座としてせせらぎ学校を講師 25名を招き実施し、コミュニケーション能力を身につけた。 ・紛争地域での現状を学ぶ公開授業「希望の義足」を実施し、地域や保護者、中学生を含む約 80名が参加し、平和について学習した。 ・漢字検定 34名が受検し、2級 2名 準2級 4名 3級 2名が合格した。 ・ビジネス文書検定 17名が受検し、3級 5名、2級 1名合格した。 ・書写検定 13名受検し 8名が合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より TOEIC Bridge から英検に変更したが、より高い目標を達成できるよう継続していく。 ・多方面の大人にインタビューする事でコミュニケーション能力を養うせせらぎ学校は、講師依頼が大変であるが、来年度は保護者や同窓会にさらに協力していただき、学年全体で実施できるよう検討していく。 ・公開授業に、より多くの参加があるように、広報活動を行う。 ・各種検定受検者を増やすとともに、サポートを継続していく。 	<p>(その他) 特になし</p>	
<p>〈生徒指導・支援〉 (1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。</p>	<p>(1) <①生徒指導の徹底 ②個々の生徒に応じた支援体制の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装、頭髪に関して、ルール違反者をなくすために、段階を踏んだきめ細かい指導を粘り強く行う。 ・各学年と情報を共有するなど連携を密にし、必要に応じて外部の専門機関の活用を積極的に行う。 	<p>(1) ①細やかな生徒指導により、特別指導件数が減少したか。(特別指導集計) ②教育相談の内容と件数の推移と外部機関を活用できたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪指導の徹底により明らかな茶髪の生徒はいなくなった。 ・一部の生徒がブレザー未着用やパーカー着用で登校している実態はまだある。 ・特別指導件数は昨年度比で 4割減となり、大きく減少した。 ・教育相談では相談件数は増加したものの、不登校等の深刻な相談内容のものは減少し、緊急性のある相談がかなり減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磯子高校生としての自覚と責任感を育て、制服着用の徹底を図りたい。 ・生徒の規範意識を育てる取り組みを多方面で行い、特別指導の件数をさらに減少させたい。 ・生徒の小さな変化も見落とさぬようコミュニケーションを充実させ、教育相談体制をより活用することで、生徒の抱える問題を悩みを初期の段階で改善させられるように取り組みたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異装や頭髪についての徹底指導は大変良かった。頭髪が良くなっただけで、学校のイメージアップに繋がった。 ・学校が大変落ち着いた気がする。 ・体育祭や文化祭に生徒が一生懸命取り組んでいる姿が見られて、盛り上がりを感じた。 ・生徒の中には、直前まで何をしたら良いかわからない人もいるようなので、生徒の連携がスムーズにいくように工夫をしてほしい。 ・部活動の生徒が、部活以 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細やかな生徒指導により学校全体の落ち着きが増し、生徒の規範意識を向上させることができた。 ・文化祭、体育祭、球技大会などの運営面における生徒の主体的な活動が多く見られた。 ・部活動において、部としての一体感が向上し、磯子高校の生徒としての誇り、生き生きとした充実した高校生活の様子が見られた。 ・生徒の様子について、家庭との連絡がこまめにとられており、生徒指導・支援がスムーズに行われた。

<p>(2) 豊かな人間性や社会性・主体性を育み、自己有用感の向上を目指す。</p>	<p>(2) <①生徒主体の活動の支援 ②学校行事や部活動の活性化> ・学校行事を中心に生徒が主体的に参加、運営する場面を創出する。 ・生徒の自主性や協力する意識を高めるために、部活動試合結果や活動状況について掲示物等で広報し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>(2) 学校行事や部活動に積極的に参加できたか。主体性が育まれているか。(各活動状況、職員・生徒アンケート、年度末入部率)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭、球技大会等の学校行事では、部活動や各委員会の協力を得て活発に活動することができた。少しずつ企画運営に関わる生徒も出てきている。文化祭ではオーストラリアからの留学生も加わり、国際色豊かな行事となった。 ・生徒会執行部は積極性が出てきており、協力して活動していた。各行事や防犯パトロール、磯子サミットなどに参加した。 ・部活動の入部率は2月末で47.2%。(1,2年生)熱心に活動する部が増え、休日のグラウンドの調整に苦慮することもあった。陸上部、空手道部は関東大会出場を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事の精選や内容の見直しが求められてくる。企画の段階から生徒が関われるよう継続的に取り組み、生徒が生き生きと活動できるよう工夫する。 ・文化祭では、頭髪や服装など生徒指導と関連することも多い。グループ同士の連携を図りながら進めていきたい。 ・生徒会執行部の役割を明確にし、生徒の意欲を認めながら行事等に関われるようサポートを続けていく。 ・部活動への入部をさらに促すため、広報活動の充実を図る。また途中でやめてしまう生徒を減らせるよう手厚く支援する。また顧問が活動に参加できるような環境づくりに努めていく。 	<p>外でもボランティアなどで活躍して良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動が活発になってきている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪や服装が非常に落ち着いて、学校の雰囲気が良くなった。若干、スカートの下にハーフパンツをはいている生徒を見かけるのが気になる。 ・生徒の健康情報について、中学校との連携をさらに進めてほしい。 ・3年間部活を継続する雰囲気を作っていくと良い。 <p>(その他) 特になし</p>	<p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事では、生徒の達成感と有用感を高めるために、保護者や地域の参加協力体制をさらに整備する。 ・ネット社会における危険性についての教育をさらに充実させ、生徒が事故や犯罪に巻き込まれないよう配慮していく。
<p><学習指導・授業改善> (1) 自ら学び、考え、表現する力の育成を目指す。</p>	<p>(1) <①生徒が主体的に参加する授業の展開 ②学習意欲の向上> ・「生徒が主体的に参加する授業」を年間のテーマとして研究授業、研究協議等の授業改善計画を立て、実施する。 ・教員間の授業見学を通じて、生徒の学習意欲を向上させる授業について考え、その手立てを教員間で共有化する。</p>	<p>(1) テーマに沿った研究授業、研究協議が実施されたか。生徒の学習意欲を向上させることができたか。(生徒による授業評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って研究授業を年間11回実施し、研究協議で「生徒が主体的に参加する授業」を行うための具体的な手立てについて意見交換をし、情報を共有することができた。 ・年間計画の仕上げとして全教員が11月の授業見学週間に授業公開をする形で「主体的に生徒が授業に取り組む」ようにするための具体的な手立てを用いて授業を実施し、多くの教員が相互の授業を見学し、自らの授業の参考にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全体での研修会の実施などにより、今年度の取り組みから見えていた課題や身につけさせたい力について教員全体で共有していく必要がある。 ・また、先進的な取り組みや身近な取り組みについてさらに多くに教員が情報を共有していけるように工夫をしていく必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が家庭でも自主的に学習する習慣が身につくよう、工夫を継続してほしい。 ・自習室や職員室前の質問スペースなど生徒の学習サポートが充実してきている。 ・授業参観の際、態度の悪い生徒も見受けられた。授業改善とともに、指導も徹底してほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組ませるグループワークやプロセスについては、小学校の取り組みが進んでいるので、授業見学などの連携をすすめてみたらどうか。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としての授業テーマを定めたことで、全職員がこれを意識した授業改善を行うことができた。 ・ペアワークやグループワークなどいわゆるアクティブラーニングを積極的に推進した。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修をさらに充実させ、アクティブラーニングの効果的な方法について研究を進める。 ・教科内での授業研究と教材の共有を推進させ、共通テストによる磯子スタンダードを構築する。

<p>(2)基礎学力の定着と応用力の伸長を目指す。</p>	<p>(2) <①教科指導の工夫 ②授業力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外の授業改善に関する取り組み事例を紹介し、実践する機会をつくる。 ・長期休業中などに発展的、応用的な学習指導を行う機会を設ける。 	<p>(2) 授業改善に関する取り組みが実践され、生徒の基礎学力の向上に寄与したか。夏季講習などに生徒の積極的な参加があったか(補講参加状況)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業後の研究協議のなかで、当該の研究授業についてだけではなく、有効な様々な手法について紹介、検討する機会ができた。また、授業見学週間のなかで様々な取り組みが紹介された。これらを普段の実際の授業のなかで応用することができた。 ・3年生を中心に夏季、冬季などの休業中の講習や課業期間中の放課後の補習などが、教員からの積極的なよびかけによって行われ、生徒がよく取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組みから見えてきた課題や教員間で共有化したい課題解決のための手立てなどをもとに各教科で、課題解決の方法や身に付けさせたい力を意識した授業を各教科で作し、その結果を検証していくような機会をつくりたい。 ・授業以外の教科指導の機会をどのように作り、学校全体のものとして充実させ、継続的なものにしていくかについて考えていく必要がある。 	<p>(その他) 特になし</p>	
<p><キャリア教育> (1) キャリア目標達成に向けて学校生活を送る生徒育成を目指す。</p> <p>(2) 個々の生徒に応じたキャリア支援を目指す。</p>	<p>(1) <①キャリアガイダンスの充実 ②進路意識の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間におけるキャリアガイダンスや外部講師による講話など、生徒の必要に応じたキャリアガイダンスの機会を設ける。 ・生徒の職業意識やキャリア意識を養うために、仕事のまなび場、インターンシップ等の情報を積極的に発信し、参加させる。 <p>(2) <①生徒一人ひとりに応じた進路支援 ②進路実現を目指したきめ細かな進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望する進路を実現するために一人ひとりに応じた面談や支援を行う。 ・生徒へ適確な情報を提供できるように進路閲覧室の環境を整え、生徒の利用を増やす。 	<p>(1)生徒のキャリア意識が育まれてきたか。生徒の必要に応じたガイダンス等の機会を設けられたか。(仕事の学び場、インターンシップ等の参加状況、報告書、生徒アンケート、進路実績)</p> <p>(2)進路閲覧室の活用状況はどうか。(進路閲覧室使用状況)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事の学び場」「インターンシップ」9名の参加があった。 ・3年生の進路活動の経験講話を1学年に、一般受験の経験講話を2学年に、それぞれ総合的な学習の時間に実施した。 ・生徒の発達段階と学年ごとの指導目標に応じて、キャリア設計についての学習を充実させることができた。 ・「総合的な学習の時間」は、外部講師や大学生などを招き、様々な分野や目的のキャリアガイダンスを年間通じて計画的に企画、実施することができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・進路閲覧室を利用し、主体的に情報収集をし、進路実現に向けて活用する生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事の学び場」「インターンシップ」は時期や参加する条件が多岐にわたる。希望する分野に参加させるため、情報を正確に伝え、より多くの生徒が参加できるよう、継続的な取り組みが必要である。 ・オープンキャンパスや説明会などへの参加を一層促し、進路選択の意識を啓発していく必要がある。 ・就職、進学それぞれの分野で、3年生や卒業生の経験談を聞かせる場を充実させ、進路実現に向けて意欲を高めさせたい。 ・複数の企業や学校を比較し、最適な選択をできるような、批判的な視点を持てるよう指導していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・進路閲覧室を昼休み、放課後等より利用しやすく整備していく必要がある。また、一般受験を目指す生徒のため、入試問題集を購入するなどの整備を行う。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次よりキャリアガイダンスがあり、目標に応じた情報を得る事ができた。 ・オープンキャンパスは、夏休みの課題になっていたが、本人の目的意識が低いと効果が半減するので、事前に目的意識を持てるよう指導してほしい。 ・三年生の体験談を聞く講話では、親近感もあり心に残ったようだ。良い取り組みだと思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や学習について、学校の職員が積極的に指導する体制ができていると感じる。 <p>(その他) 特になし</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望の実態を把握し、特に四年生大学合格者数や第一希望への進路決定者が年々増加している。 ・早い時期よりキャリアガイダンスを実施しているため、興味を持って活動できる生徒が増えている。保護者の協力を得るためにも進路情報を的確に発信していく必要がある。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用など保護者への情報提供の工夫を図る。 ・卒業生や外部の方の人材を活用していく。 ・進路閲覧室の活用をさらに活性化させるための工夫に取り組む。

<p>〈地域連携〉 (1) 地域や社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p>	<p>(1) ≪①地域との連携・交流の推進 ②地域との教育力の共有≫ ・地域の自治会行事やボランティア活動に積極的に参加させる。 ・本校行事への地域の自治会参加など交流機会を作る。</p>	<p>(1) 地域行事やボランティアへの参加による意識の変化が見られたか。(ボランティア参加状況、生徒アンケート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR を利用し、生徒全員が地域清掃行った。また、地域貢献デーや行事の前には部活動生徒や委員会生徒が清掃活動を行った。 ・ハンズデーでは、保護者や地域の方とともに、生徒がデザインした庭造りを行った。 ・近隣小学校の運動会ボランティアに 10 名の生徒が参加した。 ・幼稚園では、子どもの発達と保育選択者 33 名が手作りのパルティターを行った。 ・地域ケアプラザで吹奏楽部・空手道部・書道部延べ 75 名が定期的に交流活動を行った。 ・高齢者福祉施設で軽音楽部 20 名が夏祭りボランティアを行った。 ・地域夏祭りには吹奏楽部 20 名が参加し、盛り上げた。 ・地域防災訓練に、生徒有志が参加し、炊き出し訓練を行った。 ・夏休み子どもわくわく体験講座を実施し、近隣の児童に空手道・書道・茶道の体験指導を行った。 ・風紀委員 10 名が近隣小学校低学年児童に向けて、防犯教室を行った。 ・生徒会執行部で地域自治会の防犯パトロールに参加した。 ・近隣小学校見学会にあわせ、生徒約 10 名が小学生保護者との座談会を開き、子育てについてのディスカッションを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃以外のボランティア活動の意識を高めさらに参加するよう、情報提供の工夫を行っていく。 ・ハンズデーでの取り組みに生徒の企画を活用する事ができ、有意義に終わった。今後も活動を計画的に行っていきたい。 ・ここ数年、小学校との教育力の共有の視点で、新たな取り組みを増やしてきた。今年度は風紀委員会による防犯教室取り組みが定着したことから、今後は、内容を充実させられるように準備を進めていく。 ・地域の福祉施設でのボランティアは、継続的に定着している。今後は、各委員会や部活動が様々な形で参加できるようにしていきたい。 ・教育力の発信という事で 2 年目を迎えた夏休み子どもわくわく体験は、近隣の子どもの参加も増えてきた。さらに広報活動を充実させたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒に活動し、触れ合う事は素晴らしいことだと思う。今後も更なる企画の充実と、一人でも多くの生徒が参加できるようにお願いしたい。 ・保護者が積極的に学校行事をサポートしていく雰囲気になっていくとよい。 ・積極的にボランティア活動に参加している生徒がたくさんいる。 ・自分より年齢の下の子どもたちと触れ合う事で、考え方や行動がしっかりしてきた。 ・学校の HP やメール配信で、特別講座や検定の募集、インターンシップの募集など幅広い情報を流してほしい。 ・中学生に対しての学校説明会は、生徒の参加もあり雰囲気がよかった。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢化が進み、70 歳以上が 30% を超えている。今後も地域ケアプラザと協働で連携活動を充実してほしい。 ・防犯パトロールや日常の声かけボランティアなど生徒の参加を活性化させてほしい。 <p>(その他) 特になし</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域等連携教育研究という視点から行ったさまざまな取り組みは、生徒の取組み状況や感想から、良い成果が得られたと感じる。 ・地域との連携については、お互いの行事に参加し合うなど、工夫することができた。今後も継続することで本校の様子や現状を理解していただき、協力していただける学校を目指したい。 ・学校説明会などの中学生への広報活動では、本校生徒の意欲的な参加が定着してきたため、充実したものとなった。 ・近隣小学校との交流、連携がさらに進み、生徒の地域貢献への意識を高めることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育力向上推進事業の取組みを各グループや教科で積極的に実践していく。 ・中学生への広報活動については、必要とされる情報を精査し、ホームページ等を活用する事で、さらにきめの細かい情報提供を進めていく。
---	--	---	---	--	--	--

<p>(2) 開かれた学校づくりの推進を目指す。</p>	<p>(2) <①積極的な広報活動と情報発信 ②学校への理解深化の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや掲示板を有効に活用し、積極的な情報発信を行う。 ・中学生に本校の特色を深く理解してもらうために、わかりやすく丁寧な学校説明会を行う。また、中学校訪問の方法を工夫する。 ・地域や保護者に向けた公開講座を増やし、積極的な広報により参加者を増やす。 	<p>(2) 広報活動を的確に実施することができたか。(掲示板の活用状況、中学生アンケート、公開講座の実施状況)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月発行する学校だよりを通して、近隣や保護者に向けて、本校の活動状況を発信した。 ・HP と近隣の掲示板にて、学校だよりとせせらぎ通信を毎月掲示し、本校取組みについて情報発信した。 ・公開講座紹介のパンフレットを中学校へ送付する事で中学生や保護者の参加が増加した。 ・校内での学校説明会を3回実施し、例年より多い約1000人の中学生及び保護者が参加した。 ・夏休みの部活動・授業体験について、市内外約90校へ案内を紹介し、200名の参加があった。 ・夏休みに近隣中学校約30校を訪問し、本校の特色について説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりとせせらぎ通信による広報は定着している。近隣への生徒の下校時間や学校行事の周知については継続して行っていく。 ・本校の取組みの最新情報をHPで素早く発信していく。 ・多くの参加者を募るために公開講座についてのチラシを送付する事は継続していく。 ・中学校訪問や学校説明会で広報活動は生徒ボランティアの活用により充実しているため、今後も継続していく。 ・新校設立に向けて、移行期間の取組みについて整理し、広報を的確に行っていく必要がある。 		
------------------------------	--	--	---	---	--	--

<p>〈学校運営・学校管理〉</p> <p>(1) 県民に信頼される学校を目指す。</p> <p>(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができる学校を目指す。</p>	<p>(1) ≪①事故・不祥事防止の徹底 ②組織的な学校運営≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識を高めるために、定期的な不祥事防止研修会を開催する。 ・各グループ、学年ごとにこれまでの事故防止の取り組みについて検証、精査し、有効な事故防止策を策定する。 <p>(2) ≪①防災意識の向上 ②安全対策の強化、校内環境の整備≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の場のみでなく、日常から防災意識を高めるための情報提供をおこなう。 ・環境美化を推進するために、清掃用具を充実させ、美化活動を積極的に推進する 	<p>(1) 県民から信頼される学校運営が行われているか。(研修会の実施状況、職員アンケート)</p> <p>(2) 生徒の防災意識を育むことができたか。積極的な生徒の活動参加が行われたか。(実施状況および生徒、職員アンケート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて多くの事故防止研修の機会を持つことができた。 ・6月3日に大地震発生を想定した避難訓練を実施した。併せて交通機関が止まった場合の徒歩による帰宅経路の確認訓練を実施した。 ・9月3日に「かながわシェイクアウト」に参加し、地震の際の初期対応について全校生徒で実践した。 ・12月17日に実際に発炎筒を使用して、煙による災害死を防ぐ避難訓練をおこなった。また、職員間では有事の場合にどのような手順をふみ避難誘導を開始させるか考える機会を設けた。 ・12月に上中里団地自治会の地域防災訓練に生徒2名と職員が参加し、地域との連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の避難訓練は帰宅経路の確認訓練だけでなく、生徒・職員が地域の情報を知る機会にもなり効果が期待できる。地区ごとに生徒が集合することで地域への帰属意識や連帯感をはぐくまれる一面もある。 ・シナリオによらない、臨機応変に自ら考え行動する自律型の避難訓練の機会を生徒にも職員にも用意することが必要である。 	<p>(保護者) 特になし</p> <p>(学校評議員) 特になし</p> <p>(その他) 特になし</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故・不祥事防止研修については、充実した研修を実施することができた。 ・災害時における備蓄食糧の充実を進めた。また、災害時用の発電機や投光器などを整備した。 ・地域の防災訓練に生徒が参加することができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に研修を行って行くために、内容が興味深いものとなるよう検討して行く。 ・災害発生時のための整備を継続的に進めるとともに、地域住民の受け入れについても検討していく。
--	--	--	---	--	---	---